

令和5年度 自己点検・評価結果報告書【 研究 】

推進責任者：研究・グローバル戦略・キャンパスミュージアム担当理事

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

| 自己点検の観点 | 自己点検・評価項目 | 実施方法 | エビデンス（令和4年度分を中心に） | 判定結果 |
|--|-------------------------------|-----------------------------------|--|-------|
| 研究の実施体制及び支援・推進体制が適切に整備され、機能しているか。（A-1-①） | 研究の実施や、研究を支援し推進する体制を整備していること | 研究実施体制の整備状況を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員配置状況等関係資料（R4.5.1） ・科学研究費採択状況／外部資金受入状況 ・令和4年度科学研究費獲得状況の報告 | 適切である |
| | | 研究支援体制や研究を推進する体制の整備状況を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度熊本大学URA体制図 ・技術部組織体制／・技術部の主業務及び業務依頼の案内／・設備共用促進の案内／・令和4年度熊本大学共用設備利用促進セミナー開催通知（第1回～第5回） ・「第4期中期目標期間における研究力強化のための支援の方策」 ・「国立大学法人熊本大学研究設備・機器の共用促進に向けた方針」 | 適切である |
| 研究活動に関する施策が適切に定められ、実施されているか。（A-1-②） | 研究推進のための施策を実施し、公正な研究を推進していること | 学内の資源配分に関する措置や研究に係わる規定の策定等を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度「めばえ研究推進事業NEO」公募要領、採択一覧 ・令和4年度「クロス・フロンティア研究推進事業」公募要領、採択一覧 ・令和4年度「国際先端研究プロジェクト」に関する要項、支給対象一覧 ・令和4年度「アマビエ研究推進事業」公募要領、採択(=継続)一覧 ・令和4年度「熊本大学病院研究活性化プロジェクト」公募要領、採択一覧 ・令和4年度「科研費リトライ支援事業」実施要項、支援実績 ・PI等件費の支出により確保された財源の活用に関する取扱いについて ・研究力強化財源活用制度の運用について ・R4年度活用実績報告書 ・令和4年度研究推進会議議事要旨（第1回～第12回） ・第4期中期目標期間における研究推進の基本方針 | 適切である |
| | | 公正な研究を推進し不正を防止する体制を整備していることを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公正な研究活動及び公正な研究費の執行を推進する体制（図） ・熊本大学における研究不正の防止等に関するコンプライアンス教育及び啓発活動実施計画 ・研究倫理教育受講状況：研究者及び事務職員（R4年度末時点） ・研究不正に係る誓約書提出状況（R4年度末時点） ・公正研究推進ハンドブック第4版（R4.4発行）（日本語版／英語版） | 適切である |

| 自己点検の観点 | 自己点検・評価項目 | 実施方法 | エビデンス（令和4年度分を中心に） | 判定結果 |
|--|--|------------------------------|--|-------|
| 研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点を改善するための取組が行われているか。（A-1-③） | 研究活動の結果、当初の目的が達成されていること | 間接経費を活用した事業等の実施状況、達成状況を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「めばえ研究推進事業NEO」審査及び評価要領 ・令和4年度「めばえ研究推進事業NEO」最終評価について ・令和4年度「めばえ研究推進事業NEO」最終評価結果 ・「クロス・フロンティア研究推進事業」審査及び評価要領 ・令和4年度「クロス・フロンティア研究推進事業」中間評価について ・令和4年度「クロス・フロンティア研究推進事業」中間評価結果 ・「国際先端研究プロジェクト」審査及び評価要領 ・令和4年度「国際先端研究プロジェクト」評価結果 ・令和4年度「熊本大学病院研究活性化プロジェクト」審査・評価要項 ・令和4年度における評価結果（R4→R5継続支援審査結果） ・令和4年度 科研費リトライ支援事業採否実績（支援結果） | 適切である |
| 研究活動の実施状況から判断して、研究活動が活発に行われているか。（A-2-①） | 研究成果物の発出や共同研究の実施、競争的研究費等への応募が行われていること | 研究成果物の発出状況を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・論文や学術書 ・知的財産権調査票（令和4年度実績） ・熊本大学プレスリリース（令和4年度） | 適切である |
| | | 共同研究、受託研究の実施状況を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究、受託研究受入状況（外部資金受入状況より） ・共同研究の推移 | |
| | | 競争的研究費等の応募状況を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度 科学研究費応募状況報告資料 ・その他の研究費への応募状況 | |
| 研究活動の成果の質を示す実績から判断して、研究の質が確保されているか。（A-2-②） | 研究活動の結果、競争的研究費等の獲得や外部からの評価、質の高い成果物の発出が行われていること | 競争的研究費等の獲得状況を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費採択状況及び外部資金獲得状況 ・令和4年度科学研究費獲得状況 | 適切である |
| | | 外部評価や受賞状況を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度受賞状況 | |
| | | 質の高い研究を実施していることを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度Top10%論文数 | |

| 自己点検の観点 | 自己点検・評価項目 | 実施方法 | エビデンス（令和4年度分を中心に） | 判定結果 |
|--|-------------------------------------|---------------------------------|--|-------|
| 社会・経済・文化の領域における研究成果の活用状況や関連組織・団体からの評価等から判断して、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われているか。 (A-2-③) | 社会・経済・文化の発展に貢献する研究の実施や研究成果を発出していること | 研究成果が社会・経済・文化の発展へ貢献していることを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 共同研究、受託研究受入状況（外部資金受入状況より） 共同研究の推移 公開講座等（令和4年度実績） その他の取り組み（地域連携） シンポジウム「マンガ刊本アーカイブのめざすもの」 ラジオ番組「アイラヴ漱石先生朗読館」（全20回） | 適切である |

2. 結果総括

【優れた点】

●URAの支援と外部資金獲得

第4期中期目標・中期計画において掲げた「研究者番号を有する者を母数とする科研費保有率を50.4%（令和3年度）から55%にすること」を目指し、URAにおいては、科研費の申請増、採択増に向け、従来からの科研費リトライ事業、採択調査の学内公開、不採択調査のフィードバック、応募調査の事前チェック等の取組を継続、改善するとともに、連続不採択や未応募者への働きかけを強化した結果、**R5年6月30日時点においては、常勤保有率が前年度と比較し3.1pt上昇した。**（R5年6月末時点の保有率：**R4年度50.5%／R5年度53.6%**）

また、研究力分析にも力を入れており、研究の強みや状況を客観的に把握するため、IRデータや論文分析ツールを活用し、論文数や論文引用数、研究費の獲得状況を分析し、研究支援に活かしている。

（参照資料→『令和5年度科学研究費助成事業の獲得状況について（令和5年7月27日部局長等連絡調整会議資料）』）

●熊本大学と企業（外国企業含む）との共同研究について

令和4年度は件数、受入額とも、過去最高（326件、716百万円）となった。令和3年度から開始したトップセールスや新型コロナの影響の緩和等により、特に県外企業との連携が拡大し、受入額が増加している。

①半導体企業との連携が大幅増、②本学の特徴であるナノパワー研究者・チームと企業との大型共同研究が複数設立、③医薬系分野では海外法人との連携が活発化、といった特徴が見られた。

（参照資料→A-2-①、A-2-③「共同研究の推移」より）

●公正な研究の推進と不正防止の体制整備

公正研究推進会議及び公正研究推進事務局においては、研究不正の防止等のため、組織全体を通しての意識醸成を図っているところであるが、令和4年度は、文部科学省のホームページにおいて、本学の取組みが「好事例」（研究機関の研究費不正防止に向けた特徴ある取組例）として紹介された。⇒ https://www.mext.go.jp/a_menu/kansa/houkoku/1343905.htm

これは、令和4年8月、本学の取組状況や構成員の規範意識の維持、内部監査の状況などについて、文部科学省関係者及び「公的研究費の適正な管理に関する有識者会議」委員と本学最高管理責任者等による意見交換（深掘調査）が行われ、その結果「好事例」として掲載されたものである。令和4年度は13機関の取組例が掲載されている。

（参照資料→文部科学省ホームページ画面及び本学の紹介資料）

●熊本大学病院における研究支援研究費「熊本大学病院研究活性化プロジェクト」の設立

熊本大学病院においては、病院又は大学院生命科学部研究部の臨床系の講座に所属する研究者を研究代表者とし、これらの組織以外の組織に所属する研究者を研究分担者として加えることを必要条件とすることで、先進医療に発展しうる研究シーズの探索や新規診断・治療法の開発につながる臨床・基礎・異分野融合共同研究を活性化することを目的として、令和4年度公募をスタートに、研究支援研究費を設立した。3年総額3億円という、学内公募型研究助成事業としては、大規模な予算を確保している。

1年目（R4年度）は新規申請27件中、9件が採択され、年度末には研究成果の進捗が評価された結果、うち5件が継続支援課題に採択されており（複数年支援）、学会や論文投稿による成果の公表が行われている。

（参照資料→A-1-②「令和4年度熊本大学病院研究活性化プロジェクト」公募要領、採択一覧／A-1-③「令和4年度熊本大学病院研究活性化プロジェクト」審査・評価要項、令和4年度における評価結果）

【改善を要する点】

特になし